

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ミシック・ジャッカル	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.470	△RG	0.054	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：MYTHIC JACKAL

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

比較対照ボール：JACKAL LEGACY

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

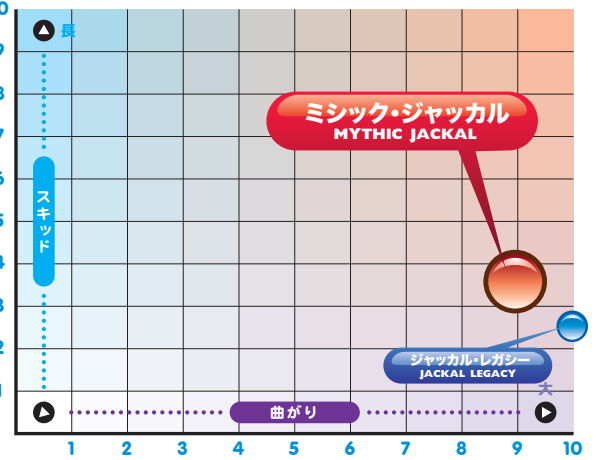
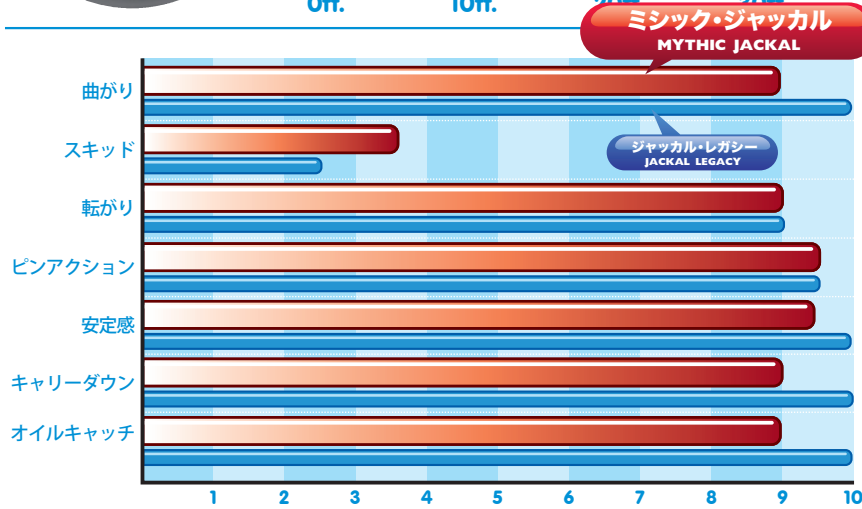
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

モチーフの中でも絶大な人気を誇るジャッカルシリーズ。今作ミシック・ジャッカルで第13弾になり、その人気は未だ衰え知らず。ジャッカルといえばヘビーオイル向けと言われ、他の領域は他のボールに譲るとしても、ヘビーオイル向けの領域はジャッカルを選択する人が多く、歴代のジャッカルを振り返ってみてもその当時の最強カバーを用いて作成されています。その中でもゴールデンとフラッシュは特異性を持たせ、走りを基調としたスペックで発売されました。

今作はフラッシュで使用されたインフュージョンカバーストックをハイブリッド素材にし、米国発売ではポリッシュ仕上げですが、日本では2000Grit LSSにて発売致します。

まず米国発売の5000Grit LSPの一番光沢の高いポリッシュ仕上げから日本向けに一番粗い仕上げにした経緯は、前記の通り、日本のマーケットではジャッカルはオイリー向けで浸透しており、ユーザーのみならず開発チームもジャッカルにはヘビーオイルを担ってほしいという要望が高いからです。この表面加工を選択したことで、インフュージョンの良さである走りにしっかりとしたブレーキ感を加えられ、バックエンドの動きをもたつかせることなく、躍動感のある動きを実現しました。

私にはソリッド素材でガッチリ手前から噛ませるイメージのキャッチも良いのですが、走り系のカバーを結構強めに表面加工を施すことで、キャッチも投げやすさを感じました。奥の動きを残したまま走りのブレーキ感を調整できるので、奥の動きが弱まるイメージがなく、やや出し戻しのラインにコンディションが変わってきた時にもポケットに対しての入射角が取れます。また軽くポリッシュしてミディアム系で存分にジャッカルをメインボールにするのもありだと思います。

特記事項

日本仕様は2000Grit LSSで走りの中にキャッチを加え、奥の動きのメリハリ感を活かしています。軽くポリッシュする事で、フランチャイズのコンディションも盤石になるでしょう。